

# 日本野球界の発展に向けて

## — 聖カタリナ大学硬式野球部を追う —

大 城 卓 也

### 要旨

近年、野球人口の減少が問題視されている。そのような状況下で、愛媛県の聖カタリナ大学は愛媛の野球界の発展を目指し硬式野球部を創部した。野球界の裾野を広げるといっても意義のある取り組みであるが、その成果は未だ確認されていない。そこで、聖カタリナ大学硬式野球部の完成年度（2022年度）まで縦断的に研究することで、その野球界への貢献を明らかにすることにした。本研究では、創部に携わった4名にインタビュー調査を実施し、その後テキストマイニングで分析した。その結果、硬式野球部を創部したことで、「学内に活気が出てきた」、「大学の経営に好影響を及ぼした」、「今後に大いに期待している」などの良好事項から、「指導者選別に苦勞した」といった創部の際に直面する問題事項が明らかとなった。これらの研究結果をもとに、今後は学生への満足度調査などを実施していく。本研究が野球部創部を考えている団体の一助になれば幸いである。

キーワード：野球人口減少、大学野球、大学経営

## 1. はじめに

### (1) 現在の野球界の問題

近年、日本では野球競技人口の減少が激しく、日本野球界は危機感を募らせている。国民的スポーツと言っても過言ではない高校野球においても競技人口が減少している。日本高校野球連盟が公表している部員数統計では、2019年の新入部員（1年生）が48,086人（加盟学校数3,957校）で直近の30年間で初めて5万人を下回った<sup>1)</sup>。また、中学校体育連盟（中体連）発表の軟式野球部員は164,713人（2019年）であり、10年前の2009年と比べると約14万人も減少している<sup>2)</sup>。加えて、この発表における野球の競技人口減少率は、少子化による子供の減少率よりも高い。このことから、相対的に競技として野球を選ぶ子供が減少しているということが言える。そこで、日本の野球界はその裾野を広げべく様々な取り組みを行っている。例えば、2019年に開催された日本野球科学研究会第7回大会の

テーマは「普及と育成 そのカタチ」であり、シンポジウムや講演ではいかに野球の裾野を広げるかに焦点が当てられた<sup>3)</sup>。また、日本プロ野球機構（NPB）の球団や独立リーグ、企業チーム、高校や大学なども積極的に野球教室やイベントを開催し、子供たちに野球というスポーツに触れる機会を提供し、野球人口の減少に歯止めをかけようと努力している。

このように、野球人口の減少を防ぎ、増加に向けて様々な団体が創意工夫を凝らした取り組みをしている一方で、勝亦は大学野球部員の人口は増加していると報告した（2019）。これは野球の継続率が上昇していることが要因であると考えられる。さらに勝亦は、1チーム当たりの大学野球部員の平均が2007年の55人から2019年では75人へと増加していると報告した。その理由について、強いチームに競技指向の強い選手が集まる、優秀な選手の囲い込みや大学の学生数確保など様々な可能性を述べた<sup>4)</sup>。実際に、大学野球の集大成である明治神宮野球大会に出場した11大学の硬式野球部の部員数の平均は138人（2020年度）となっている<sup>5)</sup>。さらに、明治神宮野球大会よりも出場枠が広い全日本大学野球選手権に出場した27大学の硬式野球部の部員数平均も126.3人（2020年度、日本文理大学が部員数未公表のため26大学で計算）となっている<sup>6)</sup>。全日本野球選手権は、出場チームが選抜される明治神宮野球大会と比べ、各大学野球連盟にそれぞれ1枠の出場枠があるため大会への出場が容易とされる。そのため、地方のリーグで結果を示し全国の舞台で活躍する国公立大学や小規模大学も一定数存在する。しかしながら、全国大会に出場する大学のほとんどは100人を超える部員を抱える大規模チームであることは揺るがない。

表1 第50回記念明治神宮大会出場大学の部員数（2019年度）筆者作成

大学名	所属連盟	部員数
東海大学札幌キャンパス	札幌学生野球	98
東北福祉大学	仙台六大学	137
慶應義塾大学(優勝)	東京六大学	144
中央大学	東都大学野球	76
城西国際大学	千葉県大学野球	175
東海大学	首都大学野球	124
金沢学院大学	北陸大学野球	153
関西大学(準優勝)	関西学生野球	209
大阪商業大学	関西六大学	173
広島経済大学	広島六大学	112
九州産業大学	福岡六大学	117
11大学	平均部員数	138
※部員数は2020年度(学生スタッフ含む)		

表2 第68回全日本大学野球選手権大会出場大学の部員数（2019年度）筆者作成

大学名	所属連盟	部員数
東京農業大学北海道オホーツク	北海道学生野球	106
星槎道都大学	札幌学生野球	94
八戸学院大学	北東北大学野球	65
東北福祉大学	仙台六大学	137
東日本国際大学	南東北大学野球	99
城西国際大学	千葉県大学野球	175
上武大学	関甲新学生野球	192
創価大学	東京新大学野球	82
明治大学(優勝)	東京六大学	117
東洋大学	東都大学野球	112
東海大学	首都大学野球	124
桐蔭横浜大学	神奈川大学野球	136
愛知工業大学	愛知大学野球	60
中京学院大学	東海地区大学野球	177
福井工業大学	北陸大学野球	167
立命館大学	関西学生野球	154
大阪商業大学	関西六大学	173
大阪体育大学	阪神大学野球	152
大阪工業大学	近畿学生野球	127
佛教大学(準優勝)	京滋大学野球	101
近畿大学工学部	広島六大学	93
環太平洋大学	中国地区大学野球	231
高知工科大学	四国地区大学野球	70
福岡大学	九州六大学	125
九州産業大学	福岡六大学	117
日本文理大学	九州地区大学野球連盟北部	未公表
宮崎産業経営大学	九州地区大学野球連盟南部	98
平均部員数(日本文理大学を除いた26大学)		126.3
※部員数は2020年度(学生スタッフ含む)		

大学野球人口が増加していることは、野球界にとっても喜ばしいことだが、プロ野球の支配下登録選手は70名である。加えて、恵まれた練習施設や指導者が存在していることが選手育成にふさわしい環境だとすると、近年の大学野球は選手育成が極めて困難な環境にあるといえよう。また、勝亦はただ単に大学の野球人口が増えているから良いということではなく、野球に対する満足度を高めることが最も重要であると述べている<sup>4)</sup>。大学で野球を続けても、大所帯のため試合の出場機会が少ない、指導者から指導を受けきれない、一人一人の練習環境が十分でないなどの弊害があれば、部員の満足度は上がらない。この状態では、学生野球最後の大学というステージで野球本来の面白さや楽しさを感じることなく学生野球を終えることとなる。長い目で見ると野球からの離脱の先延ばしになっているだけではないだろうか。部員一人一人の野球への満足度向上こそが、野球の普及発展へのカギとなることは間違いないだろう。

そのような中で、2018年に愛媛県の聖カタリナ大学は四国大学野球界の発展と愛媛県の高校球児の受け皿を目指し、硬式野球部を創部した。これまで四国地区大学野球連盟に所属する愛媛県内の大学

は愛媛大学、松山大学、新居浜高等専門学校の3校しかなく、愛媛県内での野球継続の選択肢が少なかった。少子高齢化、野球人口が激減している現在、大学野球界の発展を目指し、愛媛県内の高校球児に野球をする機会を創造した聖カタリナ大学の功績は大きいと言えよう。しかし、創部が間もないため、今後どのように活動していくのか、実際に野球界の発展につながるのか、部員の満足度は高いまま卒業していくのかは未知数である。

そこで、聖カタリナ大学硬式野球部について横断研究を実施し、その完成年度までの過程を追い、野球界にどのような貢献をするのかを明らかにする。はじめに、本研究で聖カタリナ大学硬式野球部創部までのプロセスを明らかにすることとした。この横断研究が、野球部創部を考えているスポーツ少年団、中学校、高等学校、社会人チーム、さらには新規参入を目指すプロ野球球団への一助となれば幸いである。

## (2) 聖カタリナ大学硬式野球部<sup>7)</sup>

聖カタリナ大学は愛媛県松山市に学園本部を置き、1988年に聖カタリナ女子大学として創設され、2004年に聖カタリナ大学（男女共学化）となった私立大学である。系列校に聖カタリナ学園高等学校（愛媛県）、光ヶ丘女子高等学校（愛知県）、京都聖カタリナ高等学校（京都府）を持ち、聖カタリナ学園高校は2016年の男女共学に伴って硬式野球部を創部した。それを契機に、聖カタリナ大学も硬式野球部を2018年に創部した。硬式野球部監督には、独立リーグ愛媛マンダリンパイレーツや韓国のプロ野球球団で監督、バッテリーコーチを務めた沖泰司氏を招聘した。元プロ野球選手を監督に抜擢したことも相まって創部の際、様々なメディアに注目され報道された（愛媛新聞社、毎日新聞社、デイリースポーツ、ベースボールマガジン社、愛媛朝日テレビ）。2019年より四国地区大学野球連盟に加盟した。創部1年目は、連盟加盟時期が半期ずれたため（2019年8月）四国地区大学野球連盟リーグ戦に参入できなかった。しかしながら、1期生14名（選手13名、マネージャー1名）で他の公式戦（四国地区総合体育大会、四国地区大学野球連盟新人戦）において、それぞれベスト4、準優勝を果たした。2期生（選手18名、マネージャー1名）が入学した2020年より春季リーグ戦に参戦する予定であったが、新型コロナウイルスの影響により春季リーグが中止となったため、2020年秋季リーグ戦より参戦となった。

## 2. 方法

### (1) インタビュー調査

聖カタリナ大学硬式野球部の創部に携わった関係者に半構造化インタビュー調査を実施し、硬式野球部創部の背景等を探った。インタビュー内容はボイスレコーダーで録音した。インタビューは対象

者1名、実施者1名で行われ、対象者が指定した場所（教室や会議室）で実施した。また、1回のインタビュー所要時間は約30分～40分程度であった。調査時期は2020年5月～6月で、基盤質問項目は以下の4つとした。

表3 基盤質問項目

創部に至った経緯
創部したことにより得られたメリット
創部する際に直面した壁
今後の硬式野球部に期待していること

## (2) 分析方法

まず初めに、インタビューによって得られたナラティブデータを文字おこしし、テキストデータに変換した。その後、ユーザーローカルテキストマイニングツール (<https://textmining.userlocal.jp/>) を用いて分析を行った。本研究では2種類（ワードクラウド、2次元マップ）の分析結果を掲載する。最初に、2種類の分析結果の見方について以下に説明する<sup>8)</sup>。

### ・ワードクラウド

スコアが高い単語を複数選び出し、その値に応じた大きさを図示したものである。スコアとは、その単語の重要度を表しており、TF-IDF法という統計処理に基づいて算出される。つまり、文字の大きさに重要度が比例しているということである。

### ・二次元マップ

ナラティブデータ中に単語の出現傾向を全体的に俯瞰するためのもので、「近くにある単語同士は同じ場所に出てくる傾向が強い」ということを意味している（単語の出現傾向が似た単語ほど近く、似ていない単語ほど遠く配置している）。

## (3) 対象者

本研究の調査対象者は、創部に深く関わった学校法人聖カタリナ学園及び聖カタリナ大学の教職員4名とした。

## 3. 結果と考察

基盤質問項目に基づいて得られたナラティブデータをテキストデータに変換後、それぞれテキストマイニングで分析した。以下に、ワードクラウド、二次元マップの結果をそれぞれ示した上で考察を述べていく。



### 3-1. 基盤質問項目①：創部に至った経緯

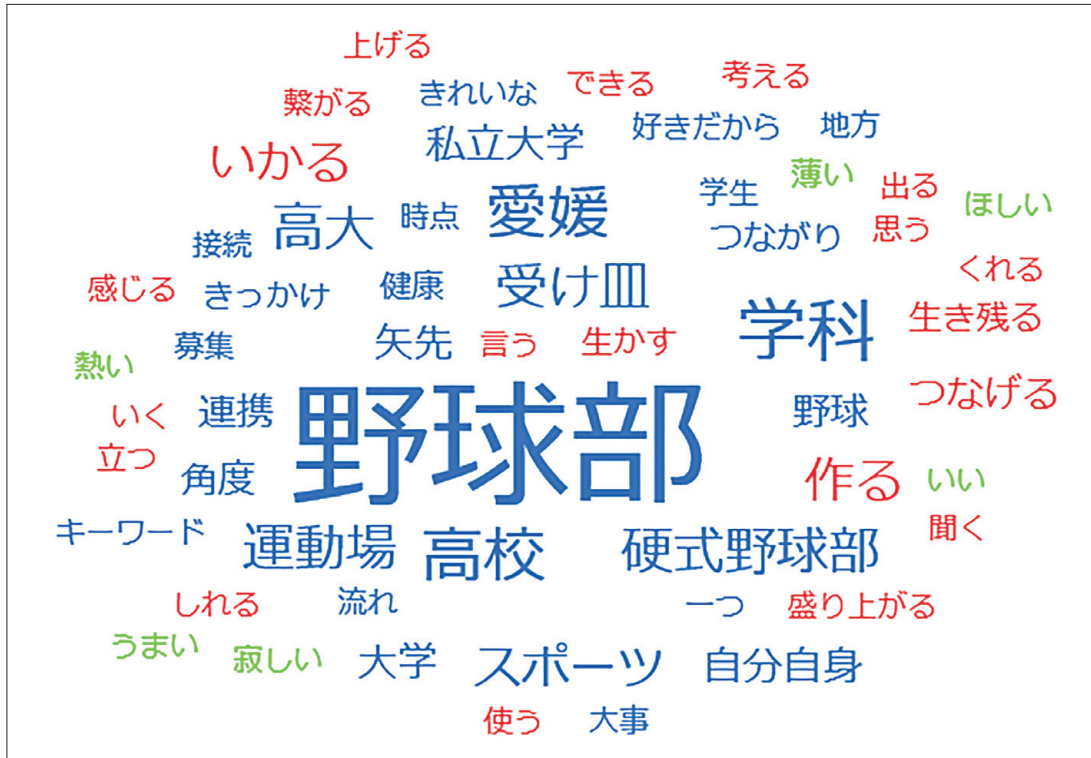


図1 創部に至った経緯 ワードクラウドの結果

名詞では「野球部」、「愛媛」、「高校」、「学科」、「受け皿」、「高大（調査対象者が発言した高校大学の略称）」という単語が頻出していることがわかる。また、「募集」、「連携」という経営的な側面を持つ言葉も登場している。動詞では「つなげる」、「生き残る」、「作る」という単語が目立った。似たような言葉が頻出していることから、調査対象者の4名は極めて近い価値観の下で聖カタリナ硬式野球部を創部したことが考えられる。実際のインタビュー内容でも、「愛媛県の高校球児の受け皿となる野球部をつくりたい」、「野球の力で高校と大学の連携を図りたい」、「健康スポーツ学科を持つ大学としてスポーツに力をいれていくべきである」といった発言も多く見られたことから、創部に携わった4名の対象者は「愛媛の野球界の発展」、「大学と附属高校の連携」、「スポーツ学科を保有する大学のアイデンティティの確立」を目指していたことがわかる。加えて、経営的な視点から「野球部を広報とした知名度の向上と学生募集」も考えていた。これらのことから地方の小規模大学の生き残りをかけて経営戦略として、スポーツ（野球）の力を借りて大学を立て直すことを選択したことが推測される。

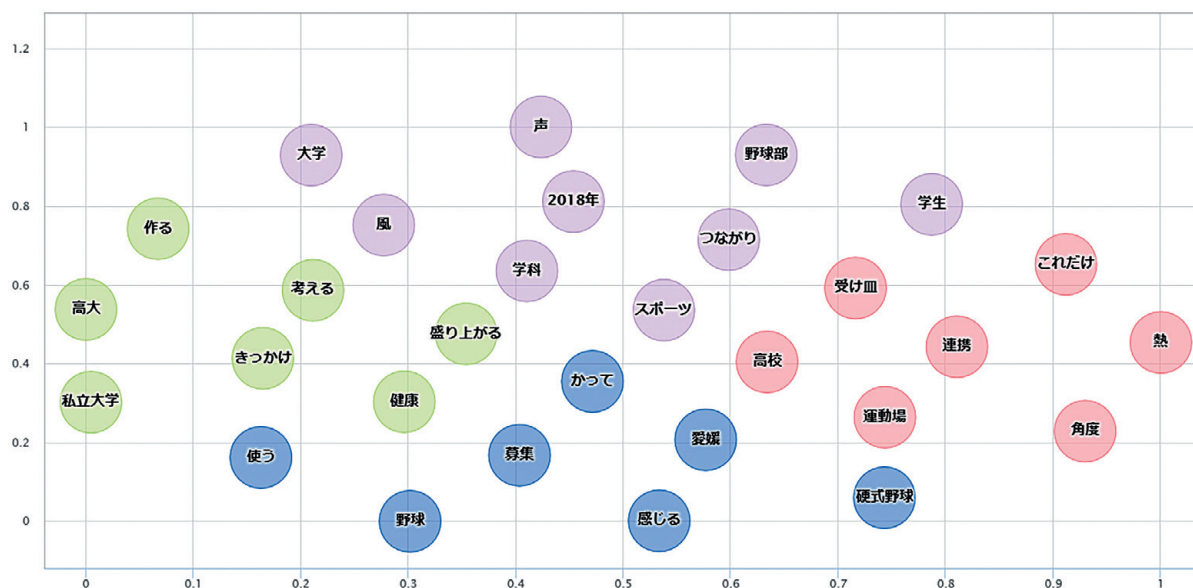


図2 創部に至った経緯 二次元マップの結果

二次元マップ（図2）を見てみると、「スポーツ」、「学科」、「つながり」、「野球部」といった言葉が近くに配置されている。聖カタリナ大学はこれまで健康スポーツ学科を有していながら運動部活動に注力していなかった。その現状を打破し、学内に活気をもたらすことを目的に硬式野球部を創部したことが推測される。

実際に、硬式野球部を強化指定クラブとし、健康スポーツ学科を有する大学としてスポーツに注力していくことを学内外に示すことができたことは、大学にとっても有意義なことだと考えられる。また、「愛媛」、「高校」、「受け皿」、「連携」という語群も存在している。附属高校が野球部を創部したことを契機に大学でも野球部を創部することで、高校野球部の受け皿を目指すということがはっきりとかがえる。また、この結果は附属高校の野球部の生徒を大学でも受け入れることで、大学の学生募集に貢献してもらおうという経営戦略的視点も見られる。2020年9月現在、硬式野球部には33名（2学年選手31名、マネージャー2名）が入部しており、そのうちの5名が附属高校の出身者である。また、大学硬式野球部の27名が愛媛県出身者である。この数字は、全部員の80%以上が県内出身者であることを示しており、硬式野球部の創部は愛媛県の野球継続人口に貢献し、かつ大学経営的な視点からも十分にその役割を果たしていると言える。

### 3-2. 基盤質問項目②：創部したメリット

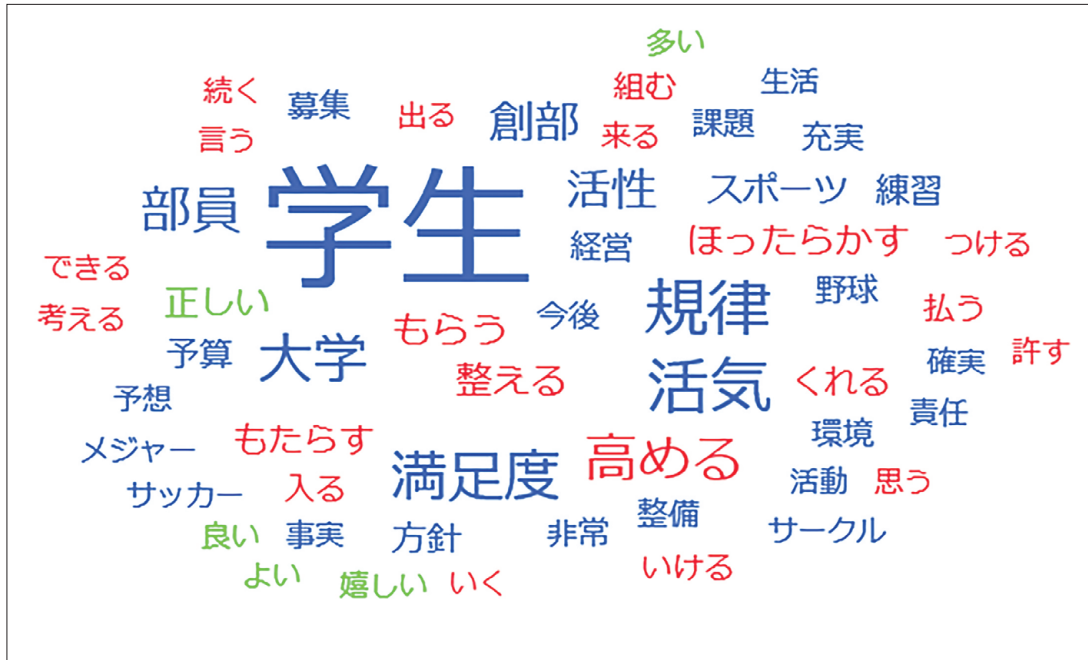


図3 創部したメリット ワードクラウドの結果

名詞では「学生」、「規律」、「活気」、「満足度」、「活性（化）」という単語が頻出している結果となった。また、「予算」、「経営」、「整備」という言葉も登場している。動詞では「高める」、「整える」、「ほったらかす」という単語が目立った。創部したメリットとして、学生に規律がもたらされたこと、大学内に活気がでてきたことなどが推測される。「満足度」については、調査対象者全員がこれからどのように満足度を高めていくのかについて言及していたことから頻出頻度が高くなっていると考えられる。実際のインタビュー内容では、「部員がわざわざこの大学を選んでくれた。次はこの学生たちの満足度をいかに高めるのか」、「満足度向上は次の課題だ」などといった創部したことで得られたメリットを環境整備や資金援助という形でいかに学生へ還元していくかについて言及する場面も多く存在した。また、動詞では「（満足度を）高める」、「（環境を）整える」といった、名詞とリンクする言葉が頻出した。「ほったらかす」については、「（環境整備や適切な指導もせずに部員を）ほったらかす」という言葉のことである。大学経営の視点から、野球部員を際限なく入学させ、適切な指導が行き届かなくなる大学も少なくない。そんな中で、調査対象者は、この野球部ではそのようなことはせず、野球を通して大学生生活を充実させてほしいという考え方で一致していた。



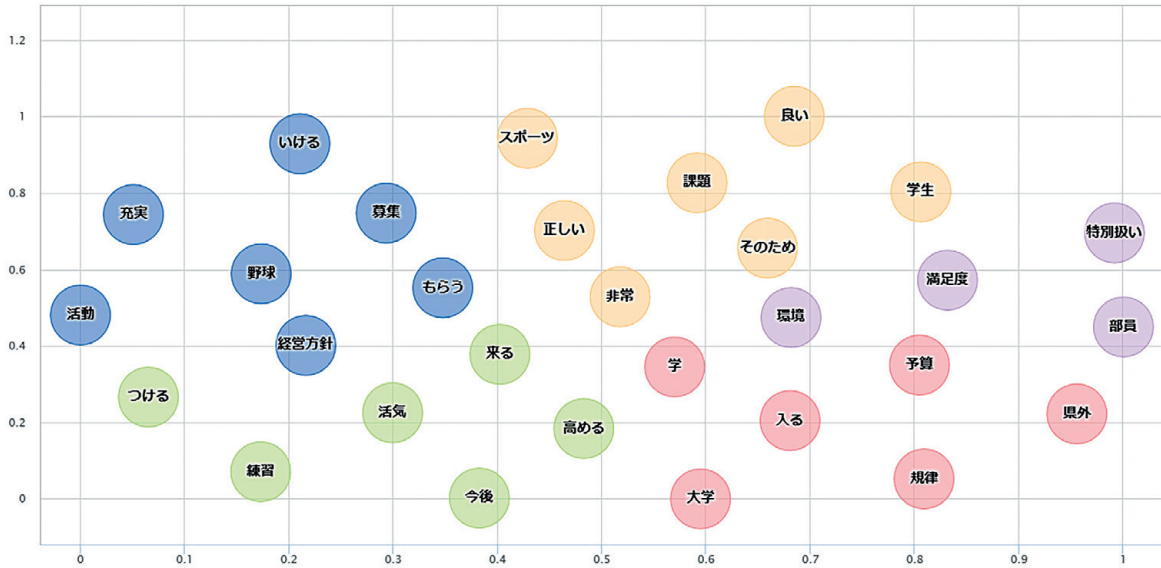


図4 創部したメリット 二次元マップの結果

二次元マップ（図4）を見てみると、「野球」の周りに「経営方針」、「募集」、「充実」といった言葉が集まっている。創部したメリットとして野球が経営方針として打ち出され、学生の募集や学生生活の充実につながっていると、調査対象者たちが実感していることがわかる。硬式野球部を強化指定クラブとし、健康スポーツ学科を有する大学としてスポーツに注力していくことを学内外に示すことができたことは、大学にとっても有意義なことだと考えられる。

### 3-3. 基盤質問項目③：創部する際に直面した壁

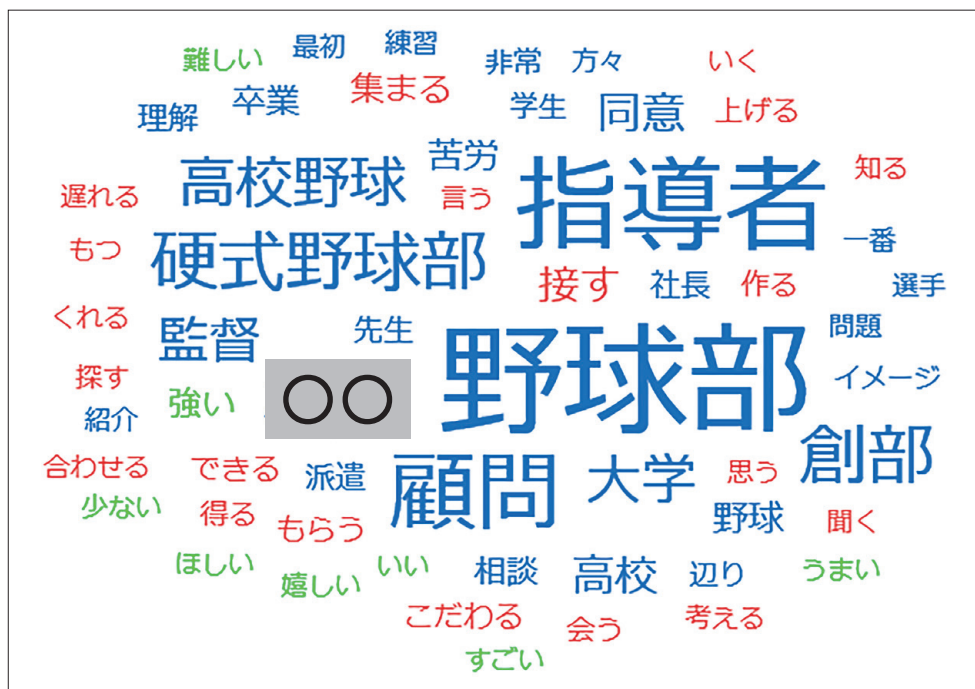


図5 創部の際に直面した壁 ワードクラウドの結果

名詞では、「指導者」、「顧問」、「監督」、「〇〇」という単語が頻出している結果となった（〇〇は特定の人名であるため本研究では伏せておく）。創部の際に、指導者（監督や顧問）を誰にするのかという点が最も難航したことがわかる。そこに〇〇という人物が頻出していることから、〇〇が指導者の選考に大きく携わったと考えられる。調査対象者のインタビューの中に、「野球界のつながりは狭い。特にプロの世界というのは必ずどこかでつながってくる」という発言があった。このことからわかるように、ある野球界に精通した人物と接することは野球経験者と人脈を持つ有効な手段であることが明らかとなった。動詞では「集まる」、「接す（る）」、「こだわる」という単語を取り上げる。インタビュー内容には「創部1年目の監督は誰でも知っているようなビッグネームでなければインパクトがないと考えていた」という発言がある。これを、社会心理学分野では「初頭効果（Ealey effect）」と呼ぶ。初頭効果とは「ものごとや人に対して最初に示された情報が、もっとも記憶や印象に定着しやすい」というものである<sup>9)</sup>。本調査からは初頭効果という言葉は出現しなかったものの、創部に携わったメンバーは現場レベルで「創部初の監督は世間に必ずインパクトを与えられる指導者」にこだわっていた。加えて、大学の教育理念に共感する指導者を探し続けた。そのため、指導者選考に時間がかかってしまうという壁に直面した。結果的に、「元プロ野球選手が監督をしている大学だよな、とか、聖カタリナは高校だけでなく大学も野球に力を入れ始めたってよく言われるようになった（インタビュー内容より抜粋）」という発言や結果3-2が示すようなメリットが大学にもたらされていること、大学全体で好循環が生まれそうな雰囲気が出てきていること（後述：結果3-4）を鑑みると、現段階において聖カタリナ大学硬式野球部は指導者選別に成功したといえるだろう。

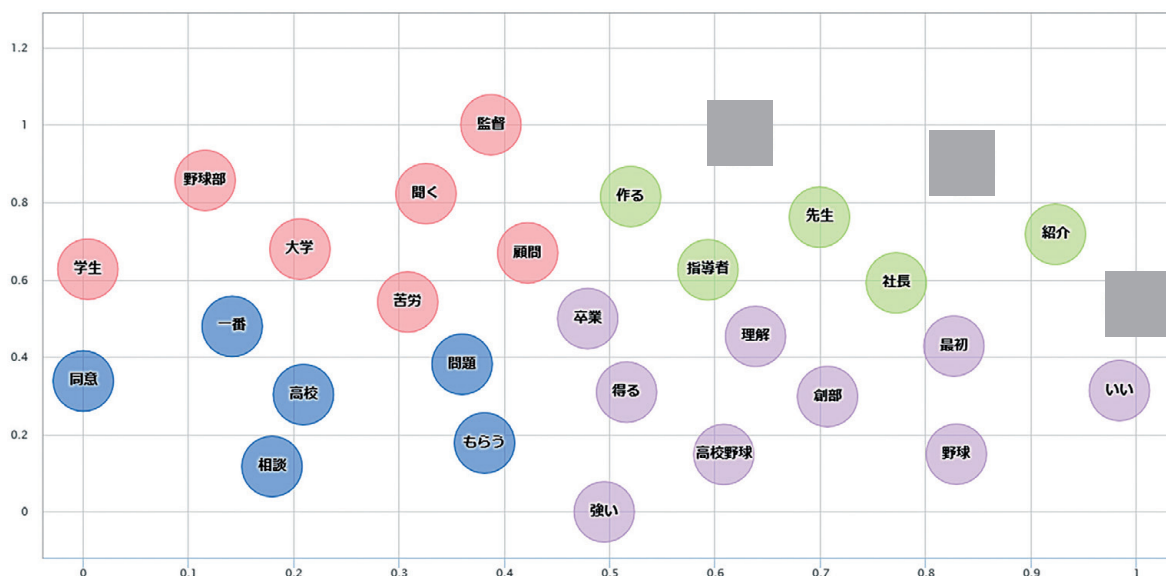


図6 創部の際に直面した壁 二次元マップの結果 ※■は個人名

二次元マップ（図6）を見てみると、「紹介」の周りに何名かの人名（■は特定の人物）が配置されている。このことから、人脈を介して指導者選考が進んでいたことがわかる。先に述べたような野球

界特有のつながりも追い風となり、現在の監督就任へとつながったのであろう。また大学、高校の言葉付近には、「相談」、「苦勞」といった言葉が集まっており、創部にあたり大学として高校側との調整や相談もあれば、法人を含めた相談などの組織間を超えたやり取りの多さにネガティブな印象を抱いた調査対象者も少なくないことがわかる。しかしながら、多くの苦勞を大学や高校、法人と共有したことで野球部が目指すべき方向性（ビジョン）が明らかとなり、指導者選考という大きな壁を乗り越えることができたと推測される。野球部を創部する際に、多くのチームが指導者選考に頭を抱えることになるだろう。そのような課題の解決方法は「人との縁とビジョンの共有」であることが、今回の調査結果から言える。野球に精通した人間にいかにしてコンタクトをとるのか、さらに、そのような人物を含めてビジョンを共有していくことで、野球部の目指すべき姿を明確にしていく。それが、組織の力になっていくことは火を見るよりも明らかである。

### 3-4. 基盤質問項目④：今後の硬式野球部に期待していること

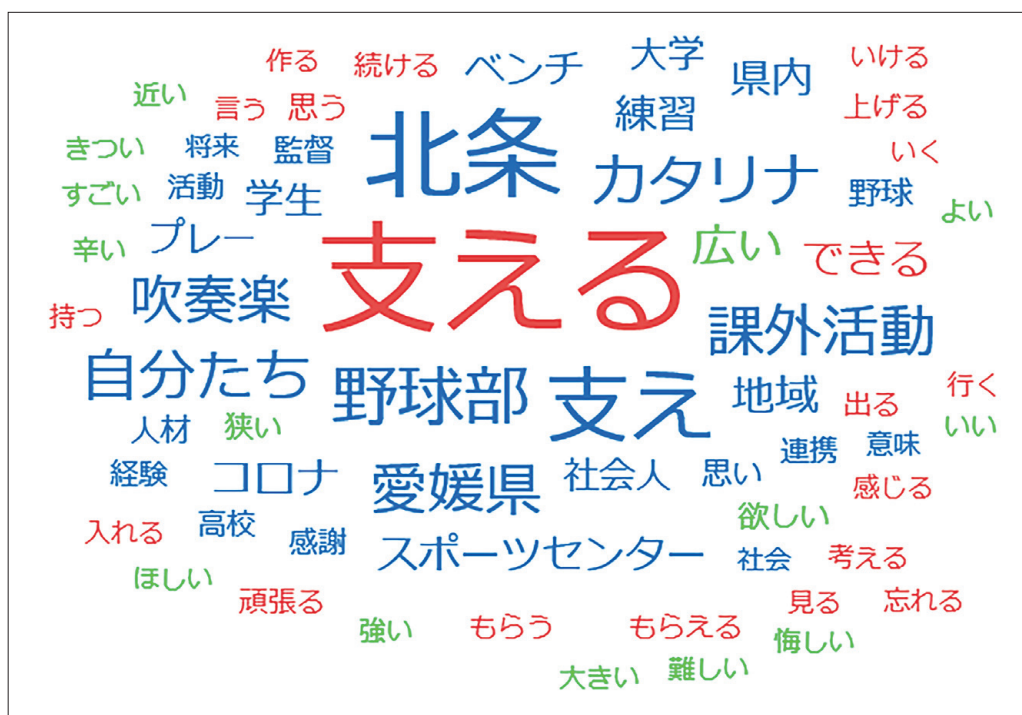


図7 今後の硬式野球部に期待していること ワードクラウドの結果

名詞では「北条（地名）」、「支え」、「課外活動」、「愛媛県」、「スポーツセンター」、「地域」という単語が頻出している結果となった。今後、北条地区や大学の課外活動、愛媛県のスポーツを支えることが聖カタリナ大学硬式野球部には期待されていることがわかる。また、「吹奏楽」という単語も頻出していたが、これは、野球部が力をつけていくと後々は大学で吹奏楽部をはじめとする応援団も結成したいという調査対象者の思いが表れた結果である。また、動詞でも「支える」という言葉が頻出している。これは地域を支えるといった意味合いもあるが、大学側が野球部を支えていくという側面もある。

る。さらに、「頑張る」、「続ける」、「できる」といった言葉から創部して満足するだけでなく、その後も育てていくという視点を調査対象者が持ち合わせていることが明らかとなった。上記の分析結果は、他の分析結果に比べて形容詞も多く表れた。例えば、「よい」、「すごい」、「難しい」、「悔しい」、「辛い」などである。インタビューの中に「悔しい思いや辛い思いをしてもカタリナで野球ができてよかった、この経験があるから社会人になっても大丈夫なんだっていう部員をたくさん育ててほしい」などの野球を通して部員の人間性を磨いてほしい旨を述べる内容が多く見受けられたことから、ワードクラウド上にも反映されたと考えられる。

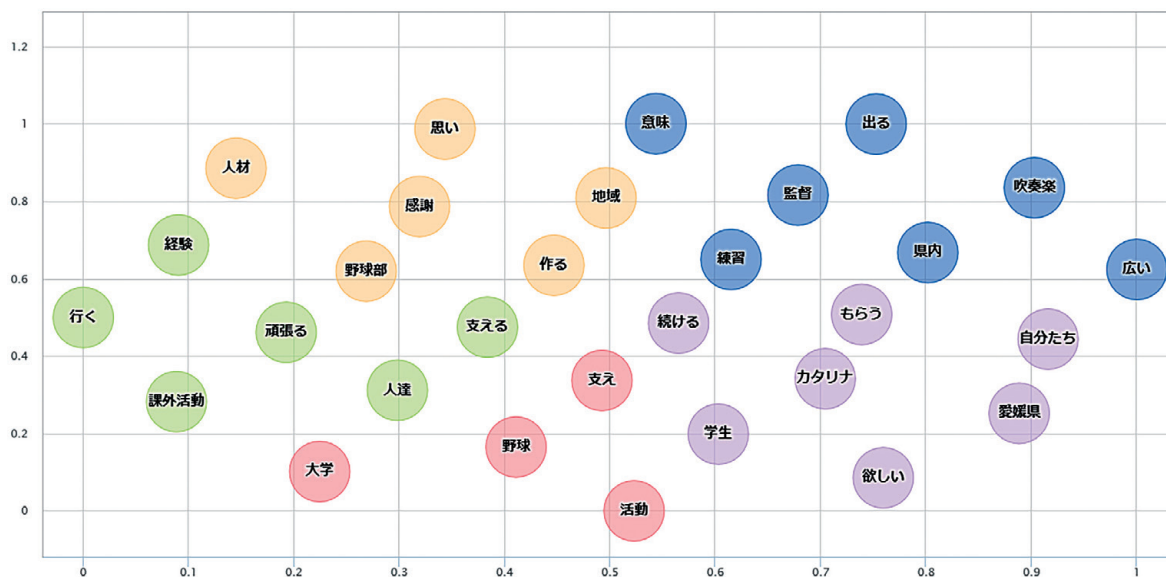


図8 今後の硬式野球部に期待していること 二次元マップの結果

二次元マップ（図8）の分析結果では、「野球部」の周りに「頑張る」、「感謝」、「支える」といったポジティブな言葉を見つけることができる。さらに、「地域」、「作る」といった単語の集まりから、硬式野球部に地域貢献をしてほしいという期待も込められている。現在、硬式野球部は積極的にボランティア活動に参加している（マラソンの交通整理、地区の祭りの運営など）。全員の調査対象者が、「野球だけでなくボランティア活動なども通して、多くの人に応援されていることに気づく人間になってほしい」、「予想以上に多くの方が応援してくれていることに気付いてほしい」、「恩返しという気持ちを大切にしてほしい」という発言をしており、野球部の活動を通して学外へポジティブな影響を与える、そして在籍する選手たちも人間的に成長することを期待している。また、「実際に野球をするのは選手だし、選手がいかにも野球に取り組めるか、積極的に行事に参加できるようになるのかは、指導者がどうやって環境を整えていくかだと思ってるって監督やコーチが言ってくれた時にその通りだと思った。この野球部はこれまでの野球部とは違うみんなから愛される唯一無二の野球部になってほしい（インタビュー内容より抜粋）」と指導者の価値観に共感したというエピソードを話す対象者もいた。



## 4. 今後の課題

現在、創部して3年が経つ聖カタリナ硬式野球部は、野球部として大きな成果を上げていないが、愛媛県の高校球児の受け皿となりつつある。また、大学経営の側面からも学生募集に大きく貢献している。これは、当初の目的を果たしつつあるといえる。しかし、これからは上記に加えて強化指定クラブの硬式野球部としてのパフォーマンスが求められる。今回の研究では、野球部創部に携わった人々を調査することで、創部までに起こりうる事象を明らかにすることができたものの、パフォーマンスの発揮についての調査を行っていない。今後は、在籍する学生の満足度調査を含む様々な調査を実施していくことで、現場での良好事例や課題を明らかにしていく必要がある。4学年までそろそろ完成年度（2022年度）まで横断調査を行い、野球界の発展の一助となれば幸いである。

## 引用文献

- 1) 公益財団法人日本高等学校野球連盟：「部員数統計（硬式）」、公益財団法人日本高等学校野球連盟 HP, [http://www.jhbf.or.jp/data/statistical/index\\_koushiki.html](http://www.jhbf.or.jp/data/statistical/index_koushiki.html), 2019.
- 2) 公益財団法人日本中学校体育連盟：「令和元年度加盟生徒数（男子）」、公益財団法人日本中学校体育連盟 HP, [http://www.njpa.sakura.ne.jp/pdf/kamei/r1kameiseito\\_m.pdf](http://www.njpa.sakura.ne.jp/pdf/kamei/r1kameiseito_m.pdf), 2019.
- 3) 日本野球科学研究会：「日本野球科学研究会第7回大会普及と育成 そのカタチ」、日本野球科学研究会第7回大会プログラム, 2019.
- 4) 勝亦陽一「増加する大学野球人口 広がるチーム格差が課題」BASEBALL GEEKS, <https://www.baseballgeeks.jp/highschool/> 野球競技人口の問題を再考する %ef%bc%88 後編 %ef%bc%89/, 2019.
- 5) 公益財団法人日本学生野球協会：「第50回記念明治神宮野球大会出場校一覧大学の部」、公益財団法人日本学生野球協会 HP, <https://www.student-baseball.or.jp/game/jingu/index.php>, 2019.
- 6) 公益財団法人全日本大学野球連盟：「第68回全日本大学野球選手権大会出場校」、公益財団法人全日本大学野球連盟 HP, [https://www.jubf.net/alljapan/alljapan2019\\_teams.html](https://www.jubf.net/alljapan/alljapan2019_teams.html), 2019.
- 7) 聖カタリナ大学硬式野球部：「チームについて」、聖カタリナ大学硬式野球部 HP, <https://scu-baseball.com/>, 2020/9/30 閲覧.
- 8) 株式会社ユーザーローカル AI テキストマイニング：<https://textmining.userlocal.jp/>（2020/9/7 閲覧）.
- 9) Asch, S.E. : "Forming impression of personality", 1946, J.abnorm. soc. Psychol, 41, 258-290.

## 参考文献

- 1) 寺下貴美：「第7回質的研究方法論～質的データを科学的に分析するために～」、日本放射線技術学会雑誌, 2011, 67 (4), 413-417.
- 2) Takuya Oshiro: "For the development of the baseball in Japan -Follow-up survey of St. Catherine University Baseball Team-", The 2020 Yokohama Sport Conference, 2020, I07-P0225.



- 3) 安部昌彦：「監督と大学野球 若者が育つということ」, 日刊スポーツ出版社, 2013.
- 4) 小林信也：「高校野球が危ない 誰も言わない真の危機」, 草思社, 2007.
- 5) 東海大学札幌キャンパス硬式野球部 HP, <https://tokai-s-bbt.com/> 2020/9/30 閲覧.
- 6) 東北福祉大学硬式野球部 HP, <https://www.tfu.ac.jp/club/baseball/> 2020/9/30 閲覧.
- 7) 慶應義塾大学硬式野球部 HP, <https://baseball.sfc.keio.ac.jp/> 2020/9/30 閲覧.
- 8) 中央大学硬式野球部 HP, <https://chuobaseballteam.wixsite.com/chuobaseball> 2020/09/30 閲覧.
- 9) 城西国際大学硬式野球部 HP, <https://jiu-baseball.jimdofree.com/> 2020/09/30 閲覧.
- 10) 東海大学硬式野球部 HP, <https://www.tokai-bbc.com/> 2020/09/30 閲覧.
- 11) 金沢学院大学硬式野球部 HP, <http://www.kgu-bbc.com/> 2020/9/30 閲覧.
- 12) 関西大学硬式野球部 HP, [http://kandai.ne.jp/~cl\\_baseball/](http://kandai.ne.jp/~cl_baseball/) 2020/09/30 閲覧.
- 13) 大阪商業大学硬式野球部 HP, <https://shodai-baseball.net/> 2020/09/30 閲覧.
- 14) 広島経済大学硬式野球部 HP, <https://www.hue.ac.jp/circle/taiku/baseball/> 2020/09/30 閲覧.
- 15) 九州産業大学硬式野球部 HP, <http://www.kyusan-u.ac.jp/J/devbaseball/> 2020/09/30 閲覧.
- 16) 東京農業大学北海道オホーツク硬式野球部 HP, <http://nodaiweb.university.jp/okhotskbbc/> 2020/09/30 閲覧.
- 17) 星槎道都大学硬式野球部 HP, <https://www.seisadohto.ac.jp/club/baseball/index-1.htm> 2020/9/30 閲覧.
- 18) 八戸学院大学硬式野球部 HP, <http://kitatohoku-u.umineco.jp/team/?t=2> 2020/9/30 閲覧.
- 19) 東日本国際大学硬式野球部 HP, <http://mtu-bbl.jp/university/kokusai-u/> 2020/9/30 閲覧.
- 20) 上武大学硬式野球部 HP, <http://www.jobubbc.link/> 2020/09/30 閲覧.
- 21) 創価大学硬式野球部 HP, <http://soka-yakyubu.net/> 2020/9/30 閲覧.
- 22) 明治大学硬式野球部 HP, <http://meiji-bbc.net/> 2020/09/30 閲覧.
- 23) 東洋大学硬式野球部 HP, <https://toyouniv.wixsite.com/tohto> 2020/09/30 閲覧.
- 24) 桐蔭横浜大学硬式野球部 HP, <http://baseball.toin.ac.jp/> 2020/09/30 閲覧.
- 25) 愛知工業大学硬式野球部 HP, <http://aitech.ac.jp/~baseball/> 2020/09/30 閲覧.
- 26) 中京学院大学 HP, <http://www.chukyogakuin-u.ac.jp/campus-life/club/regulation-baseball/> 2020/09/30 閲覧.
- 27) 福井工業大学硬式野球部 HP, <http://www.futbbc.com/> 2020/09/30 閲覧.
- 28) 立命館大学硬式野球部 HP, <http://ritsumeikan-baseball.com/> 2020/09/30 閲覧.
- 29) 大阪体育大学硬式野球部 HP, <https://ouhs-athletics.jp/mensbaseball/> 2020/09/30 閲覧.
- 30) 大阪工業大学硬式野球部 HP, <http://www.osaka-it-bbc.com/> 2020/09/30 閲覧.
- 31) 佛教大学硬式野球部 HP, <http://baseballclub.bukkyo-u.ac.jp/> 2020/09/30 閲覧.
- 32) 近畿大学工学部硬式野球部 HP, <https://www.kindai-hiroshima-baseballteam.com/> 2020/09/30 閲覧.
- 33) 環太平洋大学硬式野球部 HP, <https://ipu-japan.ac.jp/athletic/club/baseball> 2020/09/30 閲覧.
- 34) 高知工科大学硬式野球部 HP, <https://kutbaseballclub.wixsite.com/kutbaseballclub> 2020/09/30 閲覧.
- 35) 福岡大学硬式野球部 HP, <http://fukuoka-university-baseballclub.jp/> 2020/09/30 閲覧.
- 36) 日本文理大学硬式野球部 HP, <http://club-nbu.jp/baseball/> 2020/09/30 閲覧.
- 37) 宮崎産業経営大学硬式野球部 HP, <https://www.miyasankei-u.ac.jp/student/baseball/index.html> 2020/9/30 閲覧.